

年間一人一研究授業の構想

□ねらい

我々（教師）一人一人の授業力を向上させ、児童の「確かな学力」を育成するために、年間一人一研究授業を実施する。

□一人一人が研究授業を行う意義

（1）指導案の作成

- ・教材研究したことを文章化することにより、自分の課題や方法が明確になる。
- ・参観者に授業展開を示すことで、本時のねらいに迫る方法が適切であったかどうかを問うことができる。

（2）授業の公開

- ・授業者にとっては、指導案で示した内容を実践する場であり、自分の課題や提案を授業を通して示すことができる。また、何より授業力を高める場である。
- ・参観者にとっては、授業を客観的に見ることのできる場であり、自分だったらこうするという見方で主体的に見ることができる。また、授業者のよい点を参考にし、自分の実践に生かすことができる。

（3）授業の検討

- ・授業を多様な視点で振り返ることができ、授業者の提案や課題を検証することができる。
- ・検討会を通して、新しい視点をもつことができる。
- ・授業者は自分なりの意見をもつことで、他者の意見についても主体的に考えようとする態度が身につく。

□研究授業の進め方

（1）黒松小学校校内研究「研究の視点」にもとづいて、研究授業を行う。

【研究の視点】①指導計画の工夫

②指導過程及び指導方法の工夫



指導法の改善

③評価の工夫

具体的には、各部会の「主題に迫る手だて」をもとに指導案を作成する。共同研究としての共通視点は、この部分であり、教材や単元・領域ではない。

ただし、学年で教材や単元・領域を共通の視点に加えて研究を進めてもよい。

また、研究授業に3つの視点を全て入れる必要はなく、授業者が自分の課題や提案内容に合わせて選択してよい。

◎今年度は、みんなで一つの授業を作るという研究ではなく、一人一人が授業を作り、それをみんなで参観し検討しながら、それぞれの先生方の授業力を高めることがねらいである。

（2）研究授業は、学年での授業・検討会が中心になるが、指導案は全職員に配布し、他学年の先生方も参加できるようにする。

（3）学校全体としての研究を深めるために、全校授業を必要数設定する。

□研究のまとめ方

研究の視点 ①指導計画の工夫 ②指導過程及び指導方法の工夫 ③評価の工夫 の3点について、研究授業や日ごろの実践で得られた成果や課題を、学年ごとにまとめる。

□一人一研究授業構想図

確かな学力を身につけさせるための指導法の改善

【校内共同研究の視点】

①指導計画の工夫

②指導過程及び指導方法の工夫

③評価の工夫

※具体的には、各部会の研究「主題に迫る手だて」が共通の視点

【指導案の作成】

1. 単元名
2. 単元の目標
3. 単元の指導
 - (1) 単元について
 - (2) 児童の実態
 - (3) 指導にあたって
4. 指導計画
5. 本時の指導
 - (1) 本時のねらい
 - (2) 評価規準
 - (3) 授業の視点
 - (4) 指導過程
 - (5) 評価（評価基準）

学年で、教材や単元・領域を共通の視点に加えて、研究を進めてもよい。

研究授業に3つの視点を全て入れる必要はなく、授業者が自分の課題や提案内容に合わせて選択してよい。

【授業の公開】

授業力を向上させるための最も重要な場（学年での授業公開・全校授業）

【授業の検討】

- ①本時の提案は何か・・・・・・・・・・・・・・・・授業者の意図
- ②なぜ、その提案か・・・・・・・・・・・・・・・・授業者の思い、願い
- ③提案はどこまで実現できたのか・・・・・・・・授業者の自評
- ④授業者として授業検討会で取り上げてほしい課題は何か・・・検討会の視点（授業の視点）

※授業者の先生の思いを大切に、授業者の先生のためになる検討会に！

黒松小学校の「授業力」のとらえ方

黒松小研究推進委員会

授業力とは・・・指導する内容の目標達成に向けて、適切・的確に授業を行うことができる力であり、具体的には、下記の5つの構成要素からなると捉える。

□授業力を構成する5つの要素

(1) 授業を企画する力（教材研究・教材開発の力）

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 教材・教科への見識 | <input type="checkbox"/> 教材への理解（教材分析） |
| <input type="checkbox"/> 明確な目標（意図とねらい） | <input type="checkbox"/> 指導計画の工夫・作成 |
| <input type="checkbox"/> 教材の開発や工夫 | <input type="checkbox"/> 個に応じた指導の工夫 |
| <input type="checkbox"/> 学習過程や学習形態の工夫 | <input type="checkbox"/> 学習環境の工夫 |

(2) 児童を適切に理解する力

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 実態（全体の傾向）の把握 | <input type="checkbox"/> 児童の言葉や行動を読み取る力 |
| <input type="checkbox"/> 一人一人の実態の把握 | <input type="checkbox"/> 表情の変化を捉える力 |

(3) 授業を展開する力（指導技術力）

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 簡潔明瞭な発問・指示 | <input type="checkbox"/> リズム（話術・声量・話す速さ・間） |
| <input type="checkbox"/> 分かりやすい説明 | <input type="checkbox"/> ノート・カードの使い方 |
| <input type="checkbox"/> 構造化された板書 | <input type="checkbox"/> 児童主体の授業展開（時間配分・活動時間の確保） |
| <input type="checkbox"/> 教材・教具の使い方 | <input type="checkbox"/> 児童の反応に対する取り上げ方・瞬時の対応 |
| <input type="checkbox"/> 課題や問題の提示の仕方 | <input type="checkbox"/> 児童の目線に立つ指導 |

(4) 的確に評価する力

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 適切な評価計画 | <input type="checkbox"/> 公平な評価 |
| <input type="checkbox"/> 一人一人を見取る力 | <input type="checkbox"/> 授業を振り返る力（教師の自己評価） |
| <input type="checkbox"/> 評価場面の設定と方法 | <input type="checkbox"/> 評価を生かす力 |
| <input type="checkbox"/> ほめ方・認め方・支援の仕方 | |

(5) 教師としての資質（全ての教育活動のベース）

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 情熱（職責の自覚・使命感） | <input type="checkbox"/> 人柄（楽しい、温かい、笑顔、前向き） |
| <input type="checkbox"/> 愛情（児童の気持ちを感じる心） | <input type="checkbox"/> 共感的な姿勢 |
| <input type="checkbox"/> 魅力（ひきつける力） | <input type="checkbox"/> 児童との良好な人間関係 |
| <input type="checkbox"/> 児童をまとめ、リードする力 | <input type="checkbox"/> 柔軟性 |
| <input type="checkbox"/> 困難な状況や課題に挑む姿勢 | |

授業力には、このように様々な要素・項目があり、これらが結実した結果が「よい授業」になると言える。また、授業力は、教師としての経験年数や個人の力量によって差があるものである。したがって、一人一人が自分の課題となる点を見つめ、これらのうち1つ、2つでも自信が持てる項目が増えれば、授業力の向上につながると考える。